

2 治療に用いる薬剤

C 降圧剤

守矢英和¹⁾，小林修三²⁾

1) 湘南鎌倉総合病院 血液浄化部，2) 湘南鎌倉総合病院 副院長

POINT

- 1 透析患者の高血圧診療では、血圧を下げることの意義を十分説明し、血圧の評価には家庭血圧を含めた1週間にわたる変動を考慮する必要があります。また透析中の過度の血圧低下や透析後の起立性低血圧をきたさないよう、透析後の立位での血圧も測定し、適切な血圧コントロールに努めることが大切です。
- 2 心血管保護効果が示されているアンジオテンシン変換酵素阻害薬（ACE阻害薬）やアンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）を第1選択薬として投与しますが、降圧効果の強いカルシウム拮抗薬、また虚血性心疾患や不整脈治療に用いられるβ遮断薬も積極的な適応になり、個々の患者が持つ合併症などを考慮して選択します。
- 3 透析患者への降圧薬処方画一的な投与ではなく、透析の時間帯に合わせた投薬タイミングを考慮し、また降圧薬の排泄経路や作用時間、透析性も加味する必要があります。

はじめに

透析開始時の収縮期血圧が140 mmHg以上、あるいは拡張期血圧が90 mmHg以上の患者は、2005年末の「わが国の慢性透析療法の現況報告」で全体の74.7%にも達すると報告されています¹⁾。高血圧は透析患者に高率に合併し、心血管系合併症に対する強力なリスクファクターであり、血圧をコントロールすることは心

不全や虚血性心疾患、脳卒中などの重篤な心血管系合併症を予防し、生命予後を改善するうえできわめて重要です。高血圧による自覚症状は乏しいことが多く、逆に透析中の血圧低下は気分不快や下肢のつりなどが出現するため、患者自身にとっては血圧をあまり下げたがらないことも多いのが現状です。そのため、血圧を下げ

ることの意義を十分説明し、一方で透析中の過度の血圧低下をきたさないよう、適切な血圧コントロールに努めることが大切です。その第一歩として、透析室での血圧のみで降圧薬を調整

するのではなく、患者自身の測定による家庭血圧も加味し、しかも24時間のみならず1週間にわたった良好な血圧コントロールに努める必要があります。

家庭血圧の大切さ

高血圧の診断にはまず血圧の測定方法の標準化が必要です。通常透析開始時の血圧は、透析開始5分以上前に5分以上の安静後に測定し、透析終了時の血圧測定は返血直前の血圧測定値を用います。ドライウェイト（DW）設定後には透析終了後に立位でも測定し、起立性低血圧の有無を評価することが大切です。

また、透析前後の血圧測定のみでは透析患者の血圧の全体像が把握しにくいいため、家庭での血圧測定方法を教育し（**図1**）、家庭血圧も加味して血圧の日内変動や、透析日・非透析日の違いを考慮することが必要で、少なくとも1週

間単位での血圧変動を視野に入れることが大切です（週平均化血圧：weekly averaged blood pressure；WAB²⁾、自由行動下血圧：ambulatory blood pressure monitoring；ABPM）。1週間の血圧変動を見てみると、透析日の就寝前の血圧は透析終了時の血圧よりさらに下がっていることがわかります。また透析中日の翌朝（たとえば月・水・金に透析を施行している患者であれば木曜日朝）の家庭血圧が週平均血圧とほぼ同じであることがわかっていますので、この値を参考にすることもよいでしょう（**図2**）。



図1 家庭血圧の測定方法